

平成29年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

学校教育目標	1 文武両道を推進する。
めざす生徒像	2 「知・情・意・力」を身に付けた生徒を育成する。

達成度	A	達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割～7割)
	C	やや不十分(4割～5割)
	D	不十分(3割以下)

重点目標	1「自主・自律の精神を持ち自走できる生徒」の育成
	2「チャレンジ精神に溢れる生徒」の育成
	3「豊かな心を持つ生徒」の育成
	4「あらゆる場面で力を出し切る根拠ある自信を持った生徒」の育成

自 己 評 価					学校関係者評価		
番号	評価項目	具体的方策と指標・基準等	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況	達成度	成果と課題、次年度への改善策	評価 意見・要望・評価等	
1	「自主・自律の精神を持ち自走できる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準学習時間を提示し、学習計画を作成させ、必要に応じて学習面談を行う。</li> <li>大学入試での活用を考えた体系的な課題研究活動を推進する。</li> <li>超難関大2名以上、医学部2名以上、難関大学15名以上、国公立大学65%以上の合格を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活と学習の記録」の提出は、学習習慣の確立に有効であり、安定した成績向上に繋がっている。</li> <li>層別指導が効果を発揮し、上位層は伸びてきている反面、下位層が思うように伸びていない。</li> <li>定期テスト前学習会や外部模試直後の解説会を実施し、学習意欲を高めることができた。</li> <li>東北大学5名、千葉大学2名、北海道大学、お茶の水女子大学各1名が合格。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活と学習の記録」なしでも生活・学習習慣が崩れない、自律を促す指導の工夫。</li> <li>層に応じた課題・添削・授業内容など、層別指導を継続して実施する。</li> <li>課題研究に係って、全校で取り組む組織的指導体制の確立をさらに推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の推進に向け、指導体制の確立が必要である。</li> <li>生徒会活動に自信を持って取り組んでいる。</li> <li>一年生の内に、基礎学力を定着させ、日々努力することの大切さを教え込むことが必要である。</li> <li>今後とも上を目指せる高い学力を持つ生徒、自律できる生徒(勉強体制)の育成を継続してほしい。</li> </ul>
2	「チャレンジ精神に溢れる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒東としての進路指導の揺るぎない柱を確立する。</li> <li>宿泊研修、探究活動、各種ガイダンス、海外研修など体系的なキャリア教育を推進する。</li> <li>個々の生徒の強みを伸ばすため、進路希望に応じたグループ指導や個別指導を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した進路計画に従い指導を進める一方、入学する生徒の多様化に対応した一層の取組みも必要になっている。</li> <li>学部学科研究会、東京キャリア研修、職業別ガイダンス、出前講義等を通して、進路探究を深め、学習意欲を喚起することができた。</li> <li>超上位層別企画を実施し、良い刺激となった。</li> <li>個別面談や三者面談、模試結果を受けての二者面談等、個に応じた指導を充実させた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究科開設に際し、深い学びの実現を目指して課題研究のさらなるレベルアップを図る。</li> <li>学年企画や医進塾などの外部企画を活用し、レベル別・進路別のグループ指導を充実させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の更なるレベルアップを図る為には職員の意識を高める必要がある。</li> <li>将来何を目指すのかを明確にし、高い語学力や物理・科学等の研究、共同して課題を解明すること、自ら積極的に取り組む能力の養成、クラブ活動では常に上位を目指すことの大切さをアドバイスしていただきたい。</li> <li>特に臆することなく、モノごとに、向かっていっているのではないか。</li> <li>勉学だけでなく記念講演を含む多彩な学校行事を通し幅広い分野と経験が養われていると思う。</li> </ul>
3	「豊かな心を持つ生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>端正な装いと元気で明るい挨拶を推進する。</li> <li>学年・クラス・生徒会・部活動等における社会貢献活動とインターハイ成功に向けた活動を推進する。</li> <li>日々の清掃活動に重点を置き、環境安全と美化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大多数の生徒については、基本的な生活習慣が確立され、生活マナーも問題ない。しかし、一部に様々な事情から遅刻をくり返したり出席状況の芳しくない生徒が見られる。</li> <li>南東北インターハイでは多数の生徒が競技補助員として協力し、大会成功の一翼を担った。</li> <li>保健委員による清掃点検等の効果もあり、普段の清掃で見逃ししやすい部分へ意識が向くなど、清掃活動の状況は概ね良好である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の状況に留意しながら、基本的な生活習慣を確立させる指導を粘り強く継続する。</li> <li>ボランティア活動を学年計画や部活動に位置付け、地域社会の一員としての意識を育む。</li> <li>良い学習環境を維持するための取り組みを、引き続き全校をあげて実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>文武両道の生活習慣確立に向けて、きめ細やかな指導が必要でないか。</li> <li>本校の生徒は、私たちが学校に足を運んだ際には、子ども達の方から積極的に挨拶の言葉をかけてくれる。</li> <li>生徒が教師に信頼感を持ち生活していることが学校評価に現れている。</li> </ul>
4	「あらゆる場面で力を出し切る根拠ある自信を持った生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己管理能力を高めさせ、出席率99%以上を確保する。</li> <li>文武両道を推進し、部活動加入率93%以上を確保する。</li> <li>主体的な生徒会活動・生徒会行事の運営と充実を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の多くは、欠席も少なく健康的に学校生活を送っている。</li> <li>生徒会活動が執行部を中心に、年々活発になりつつある。</li> <li>東翔祭やクラスマッチなど、学校行事にはクラスが一丸となって意欲的に参加することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>機会を捉えて繰り返し指導を重ね、自己管理能力を高めていく。</li> <li>困り感を持つ生徒・保護者を対象に、スクールカウンセラー事業を効果的に活用する。</li> <li>校内リーダー研修会の検討</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の核となるidentityをキチンと確立できている生徒は実力を遺憾なく発揮できると思います。それができるようにご指導よろしくお願い致します。</li> <li>何事にも強い意志を持って取り組み、解決することの面白さ、大切さを自覚できるよう指導していただきたい。</li> <li>生徒の二極化が進む中で、それぞれに対応したきめ細やかな指導をお願いします。</li> <li>この時期(三年間)に困難を負と感しないような人間形成の指導をお願いします。</li> </ul>
総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の多様化に対応した層別指導のような、きめ細やかな指導体制をさらに構築してゆく必要がある。</li> <li>課題研究を軸とする探究型学習の推進等を通して、『解のない課題』に取り組む人材育成と大学入試制度改革への対応を進める必要がある。</li> </ul>			自己評価及び学校関係者評価の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートの質問項目を、生徒・保護者・教職員それぞれについて、評価の観点を揃えながら適宜見直す必要がある。</li> </ul>	